

漢方内科

1. スタッフ

科長（兼）特任教授 萩原 圭祐

その他、特任助教2名、特任研究員5名、医員1名、特任事務職員2名、事務補佐員7名

（共同研究講座を含む。）

2. 診療内容

漢方は、本来、心身一如の精神に基づいた総合診療であるが、大学病院は高度な先進医療を行う施設であることから、各科の専門知識を踏まえ、先進医療と伝統医学との融合を目指すことで、患者のQOLの改善につながる新たな診療体系の構築を目標としている。

様々な癌における術後・化学療法・ホルモン療法に伴う症状に対処し、患者のQOLの改善、化学療法の継続などをサポートする癌・難治性疾患外来、リウマチ・膠原病・難治性アレルギー疾患を対象とした漢方リウマチ外来などを開設している。特に、癌・難治性疾患外来では、癌の食事療法として、癌ケトン食療法を行っており、免疫アレルギー疾患に対しては、抗サイトカイン療法や免疫抑制剤などと漢方の併用を積極的に行っている。また、神経内科出身の医師を特任助教に加え、漢方神経脳卒中外来を開設し、脳卒中、パーキンソン病、てんかんなどの神経疾患にも対応している。

診療では、国内において保険適用されているほぼ全ての種類のエキス製剤及び生薬製剤の処方が可能であり、幅広い疾患に対応することができる。また、生薬の治療は保険適用外と思っている患者も多いが、実際には150種類程度の生薬製剤が保険調剤可能である。また、鍼灸外来も開設している。

3. 診療体制

外来の場所は総合診療部を使用。月曜日から金曜日まで午後診、木曜日は午前診も行っており、1週間の外来コマ数は6枠である。漢方診察の特殊性として、診療に時間を要することから初診・再診ともに完全予約制をとっている。

初診の予約については、院外からは保健医療福祉ネットワーク部への申し込み、院内からは主治医からの院内予約（電子カルテでの入力）が必要である。院外、院内からの紹介希望が多くあることから、毎週水曜日に、初診外来枠を設けて対応している。

病棟部門は運営していないが、他科入院中の患者のコンサルトは行っている。ただし、院内に採用されている漢方薬が限られているため、十分な処方を行うためには、薬剤の限定採用が必要となることが多い。

研究セミナーとして、令和元年7月に、第1回大阪

大学漢方ネットワークセミナーを「フレイル・サルコペニア対策における漢方医学の役割」、「漢方補腎薬の抗フレイル効果に関する前向き研究への取り組み」というテーマで開催した。また、当科萩原が代表世話人を務める癌ケトン食研究会では、癌におけるケトン食療法のエビデンス構築、機序の解明を目指し、ケトン食療法が実践できる環境を整えるべく、癌ケトン食研究会学術集会を開催し、情報発信を行っている。

4. 診療実績

- (1) 外来診療実績：特定疾患管理料などの算定により、令和元年度の診療実績は改善している。疾患群としては、リウマチ・膠原病・難治性アレルギーなどの免疫疾患、身体表現性障害、慢性疼痛、気分障害・不安障害などの精神科疾患、パーキンソン病、脳血管障害後遺症、てんかんなどの神経疾患、産婦人科疾患、悪性腫瘍化学療法・ホルモン治療後の患者、皮膚科疾患、消化器疾患、循環器疾患、内分泌代謝疾患、泌尿器疾患、耳鼻科疾患、腎臓疾患など、多岐にわたる。
- (2) 入院診療実績：対診のみであり、当科入院実績はなし。

5. その他

- (1) 倫理委員会承認済みの臨床研究：
 - 「癌患者に対するケトン食（低炭水化物高脂肪食）の有用性の検討」
 - 「牛車腎気丸の抗フレイル効果に関する前向き研究（単群非盲検試験）」
- (2) 学会による施設認定状況：日本東洋医学会認定教育施設
- (3) 学会認定の指導医・専門医数（重複あり）：
 - ・日本東洋医学会指導医2名・専門医2名
 - ・日本内科学会認定医5名・総合内科専門医4名・指導医2名
 - ・日本循環器学会専門医1名
 - ・日本神経学会認定神経内科専門医2名
 - ・日本脳卒中学会専門医3名・指導医1名
 - ・日本リウマチ学会専門医1名・指導医1名
 - ・日本産科婦人科学会専門医1名
 - ・日本核医学会認定核医学専門医1名